

日本保健医療社会学会ニューズレター (No. 103) 2017/01/16

目次

1. 第43回大会のご案内
2. 役員選挙について
3. 若手研究者支援企画のご案内
4. 第3回理事会報告
5. 定例研究会（関東）案内
6. 定例研究会（関西）報告と案内
7. 看護・ケア研究部会報告と案内
8. 編集委員会報告
9. 渉外・国際交流活動報告
10. 科研費の新たな審査区分表について
11. 編集後記

---

## 1. 第43回大会のご案内

第43回大会は、2017年5月20日(土)、21日(日)に佛教大学二条キャンパス(京都市)にて開催します。

本大会のテーマは、「病／健康をめぐる Contestation」としました。このテーマは、医療とヘルスケア（保健）にまつわる諸問題の対立点について、その是々非々に関する社会的な探究の総体を意味します。

近年、現代医療の現場では、「先端医療」の展開により、新たな戦略の時代に突入していると言えます。ここでいう「先端医療」とは、現代社会を成り立たせている基本的な前提の変更や変容を必要とする保健・医療や、近代西洋医学・現代医療の基本原則や構造に照らして、その変革・変容を目指すような医療形態を指しています。

中でも、20世紀末から始まった予防医学の重点化は、今世紀に入るや加速してさまざまな保健・医療分野で病気に先制攻撃をかける目論みの「先制医療 preemptive medicine」という方向性を示しつつあります。「先制医療」というと真新しく聞こえますが、具体的には、一次予防を目的とする「生活習慣病／メタボリック・シンドローム」、肺炎ワクチンや「子宮頸がんワクチン」等のワクチン療法、あるいは、遺伝子検査に基づく出生前診断やあるいは、(ある女優が行なった予防的乳房切除術のような)がん家系の人の予防的手術、さらには、精神医学の領域での認知症予測の試みなどのトレンドの総体を指しています。この中では、健康と病気の間には「未病 [参考：日本未病研究学会 HP(<http://www.mibyout.or.jp/about/>)]」という概念が挿入され「未病を治療する」という新たな医療的戦略が開始されています。

一方、従来の病者に対する医療やヘルスケアでも、再生医療や、分子標的薬という最新の「魔法の弾丸 magic bullet」をめざす創薬のための個別化医療 personalized medicine などの新局面が展開されています。また、「障害」をめぐる局面でも、人工内耳や筋電義手など、ME(医用電子機器)やBCI(脳コンピュータ・インターフェース)の利用による、いわゆる「サイボーグ化」によって新たな質の能力獲得が可能になっています。

また、近年のなじみ深いテーマである、健康の定義、アトピー、発達障害やうつ病、ADHD、終末期医療、予防医学、等々についても、既に、新しい争論的手法による研究が進められています。

本大会では、今日の医療やヘルスケアを、このような病/健康をめぐる争論 (contestation/controversy) の形式を通して立体的に明示化し解説する医療社会学的研究の饗宴の場をめざします。むろん、今回の教育講演・シンポジウム等も、このような動向を踏まえた上で企画されています。ご期待ください。

このように医療とヘルスケアにまつわる諸問題について医療社会学的な視点から有意義な議論が交わされるよう大会校として努めたいと思います。大会の2日間、大勢の参加者相互の対話や討論という交流を通じて、保健医療社会学の実践的・理論的展望がさらに拓かれていくことを心から願っています。

(第43回大会長 村岡 潔 (佛教大学社会福祉学部))

## 2. 役員選挙について

### 日本保健医療社会学会役員公示

2017年1月15日

選挙管理委員：戸ヶ里泰典、中村英代

「日本保健医療社会学会規約」および「役員選出に関する内規」に基づき、次期の理事7名、監事2名の選挙を、下記の日程で行います。この時期の学会からの郵便物にはご注意のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、「役員選出に関する内規」第2条に基づき、2016年度までの会費を2017年1月末日までに納入頂かないと、選挙権および被選挙権がありませんので、会費未納の方は、それまでに会費納入のほどをよろしくお願い申し上げます。

また、役員選挙についてのお問い合わせは、e-mail (jshms-office@bunken.co.jp) またはFax(03-3368-2822) にて学会事務局までお願い致します。

〔記〕

有権者名簿・投票用紙の発送：2016年2月9日(木)頃

投票締切：2017年2月28日(火) (当日消印有効)

(以上)

(清水理事：総務担当)

## 3. 第43回日本保健医療社会学会大会連動 若手研究者支援企画 (『保健医療社会学論集』編集委員会主催企画第4弾)

日時：2017年3月25日(土) 13:00~14:30 (無料) \*本企画終了後、定例研究会を開催  
会場：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター (大阪駅前第2ビル6階小会議室：<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access>)

内容：

- 1) 『保健医療社会学論集』27巻2号掲載の「論文投稿支援ワークショップ報告」関連4原稿の解説 (担当：樫田美雄：編集委員長)
- 2) 「論文投稿支援ワークショップ報告」へのコメント (担当：木下衆：日本学術振興会)

3) 質疑応答

※ 昨年10月16日に開催された論文投稿支援ワークショップの成果を解説するとともに、議論します。非会員の方の参加もOKです。奮ってご参加下さい。

(榎田理事：学会誌編集担当)

4. 第3回理事会報告

日時：2016年12月18日(日) 13時～16時10分

会場：(株)国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：蘭会長、清水理事、榎田理事、石川理事、進藤理事、田代理事、細田理事、  
香西大会事務局長、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：伊藤理事、中山理事、西村理事

1. 2016年度 前期予算執行状況 (清水)

清水総務理事より資料添付次第の通り、2016年11月末までの予算執行状況の説明があった。収入に関しては、会費はあと1回督促請求をする予定であること、雑収入として42回大会の返金分が計上されていることが伝えられた。支出に関しては論集27巻1号のページ数が多かったことから印刷製本費が例年より費用が掛かっていること、大会補助費として35万円を予算していたが実際はかからなかったことが伝えられた。それ以外は園田基金に関しても特に大きな動きはなかった。

2. 第43回大会について (香西、進藤)

香西大会事務局長より資料添付次第の通り、第43大会予算案について報告があった。

報告に基づき、理事より運営体制、予算等について意見交換がなされた。

まだ進藤理事より資料添付次第の通り、タイムスケジュール案の説明があり、全体の進行を確認した。

特別講演のMike Saks氏の通訳について、同時通訳は機器の費用面から難しいとの意見があり、代案として細田理事よりSaks氏に3月末までに論集28巻2号掲載用の講演原稿とスライド資料を送付してもらうよう依頼することとし、大会校側で日本語翻訳のスライドを用意するなどの対応の検討をすることとなった。

3. 役員選挙について (蘭)

蘭会長より資料添付次第の通り、選挙スケジュールについて説明があった。前回選挙時は、案内文の投票締め切りについて記載がなかったことから、今回は注意し、締切日以降は受け取り拒否として対応することとした。

選挙管理委員の候補者2名の推薦が有り、両名には清水総務理事より依頼することとなった。

4. ニューズレター103号の配信について (清水)

清水総務理事より次号は年明けの配信予定であることが伝えられた。内容は大会案内、選挙告示、理事会報告、各定例研究会の案内とすることとした。

5. 編集委員の退任について (榎田・石川)

榎田編集委員長より資料添付次第の通り、長江弘子編集委員の退任について報告があり、承認された。2016年12月18日付の退任とし、次号論集の編集委員一覧から名前を削除することとした。

6. 『論集』編集関連業務委託契約の締結について (榎田・石川)

榎田編集委員長より資料添付次第の通り、編集関連業務委託契約書について説明があった。金額について既に行っている業務と差異がないことから承認された。

7. 編集委員会報告 (榎田・石川)

石川理事より資料添付次第の通り、10月15日編集委員会、今後の刊行予定、論文支援企画について報告があった。

『論集』10巻以前のweb公開について、公開していない理由の1つとして欠号があったことが挙げられたが、現在は欠号部分のコピーを入手したことから他に理由がなければ学会ホームページに掲載したほうが良いとの意見があった。小澤前編集委員長在任時に10巻以前を公開しないこととした経緯から、榎田編集委員長から欠号以外の理由があるか確認することとした。

8. 定例研究会の報告(関東) (田代・中山・西村)

田代理事より資料添付次第の通り、定例研究会と看護・ケア研究部会合同企画報告、及び第2回の企画について報告があった。

9. 定例研究会の報告(関西) (進藤・伊藤)

進藤理事より11月5日に大阪市立大学梅田キャンパスにて第1回目の定例研究会が開催されたとの報告があった。

第2回定例研究会は2017年3月25日に大阪市立大学梅田キャンパスで開催予定であること、定例研究会の前に第43回大会連動企画として若手支援企画を開催することが伝えられた。

10. 看護・ケア研究部会の報告 (西村)

定例研究会の報告(関東)にて定例研究会と看護・ケア研究部会企画の報告があり、同様の内容の為、特に報告事項なし。

11. 渉外・国際交流活動の報告 (細田)

細田理事より第43回大会特別講演講師であるMike Saks氏の対応について報告があった。国際社会学会 (ISA) が2018年7月15日から21日まで開催されるとの報告があった。2017年1月28日に社会学系コンソーシアムの評議員会とシンポジウムが開催されることが伝えられ、シンポジウムに関しては会員に告知することとした。

12. 園田賞選考委員会について

昨年同様に選考委員長を選任することとした。

13. 名誉会員推挙について (清水)

清水総務理事より資料添付次第の通り、今年度については対象者がいないことが報告された。

14. 日本学術会議からの会員等候補者依頼対応について  
清水総務理事より資料添付次第の通り日本学術会議からの会員・連携会員候補者依頼があったことが伝えられ、会長、理事経験者を中心に6名を推薦することとした。
15. 国際文献社への事務委託契約更新について  
契約期間の変更以外、変更点がないことから承認された。
16. 次期理事会への引き継ぎ事項について  
次回理事会までに各委員会にて引き継ぎ事項を検討し大会時の新旧合同理事会にて引き継ぎを行うこととした。現時点の引き継ぎ事項として、総務理事がニューズレターや広報も担当していたが負荷が大きいことから広報担当を設けること、大会校が内定している場合には、その大会長等を研究活動委員会の委員に選任することが挙げられた。
17. その他  
清水総務理事より新入会3名(通常会員)の承認依頼があり、承認された。
18. 次回の理事会日程  
選挙開票を3月上旬に行うことから3月中旬以降に開催することとし、伝助にて早めに調整することとなった。

以上

## 5. 定例研究会(関東)案内

### 第2回定例研究会(関東)

日時: 2017年3月5日(日) 14:00-17:00

会場: 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 会議室A・B

テーマ: 「社会による健康被害」への社会的アプローチの可能性

報告者: 宇田和子(福岡工業大学社会環境学部)

指定発言: 本郷正武(和歌山県立医科大学)

花井十伍(ネットワーク医療と人権)

司会: 田代志門(国立がん研究センター)

※2015年に『食品公害と被害者救済: カネミ油症事件の被害と政策過程』を出版された新進気鋭の環境社会学者・宇田和子会員から、食品公害による健康被害に関する話題を提供して頂きます。指定発言では、日本保健医療社会学会で研究蓄積のある薬害分野からのコメントを頂き、食品公害と薬害の異同を踏まえて、「社会による健康被害」への社会的アプローチの可能性を検討したいと思います。

(田代理事: 研究活動担当)

## 6. 定例研究会(関西)報告と案内

### 1) 第1回定例研究会(関西)報告

日時: 2016年11月5日(土) 14:00~16:00

会場：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階小会議室）

テーマ：医療の質・安全の観点から見たストレスマネジメントと業務分析的視点

講師：笠原聡子（滋慶医療科学大学院大学医療管理学研究科医療安全管理学専攻）

医療の質・安全の観点から見たストレスマネジメントについて報告していただいた。

平成27年には労働安全衛生法の改正によりストレスチェック実施が義務化された。平成25年の労働安全衛生調査では、仕事や職業生活に関する不安や悩み、ストレス内容として最も多いものが「仕事の量・質」である。医師や看護師は長時間労働が多い。が、看護師の場合は離職が選択され、医師の方が拘束されやすく深刻である。勤務時間の短縮が医療ミスや誤診など発生を抑制するかについての介入研究では、効果なしとの報告も少なくなく、コミュニケーションや、ストレスマネジメント、疲労への対処等のノンテクニカルスキルが患者安全において重要であることが報告された。また安全研究の流れとして、線形モデルに始まり、複数の潜在要因を扱う疫学モデル、システムックモデル（創発的変動性）に発展してきた経緯と、その最も新しいモデルの一つとしてFRAM(Functional Resonance Analysis Method)が紹介された。また研究枠組みの中で、システムは本質的に危険であり、人間と組織の柔軟性がシステムを安全に機能させているというレジリエンス（「柔軟性」「復元力」）・エンジニアリングの考え方や、安全の定義は、うまくいかないことを減らす「Safety-I」からうまくいくことを増やす

「Safety-II」に着眼するようになり、Safety-IIでは、システムの柔軟性やレジリエンスに必要な資源として位置付けられていることが紹介された。また日常臨床業務の複雑さの実証研究として、薬剤管理業務プロセスの調査研究が報告された。参加者は4名。参加者とのディスカッションでは、さらにレジリエンスの考え方や、さらに複雑になる地域包括ケアや訪問看護における展開での課題などがディスカッションされた。

## 2) 第2回定例研究会（関西）案内

日時：2017年3月25日（土） 14:40～17:00 \*上記、若手研究者支援企画に引き続き開催

会場：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階小会議室）

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access>)

テーマ：「医療化・犯罪化をめぐる方法論的検討」

講師：平井秀幸（四天王寺大学）

司会進行：進藤雄三（大阪市立大学）

※今回の関西定例研究会は、『刑務所処遇の社会学：認知行動療法・新自由主義的規律・統治性』（2015:世織書房）を上梓した、平井秀幸先生に登壇いただき、薬物事犯の刑務所での処遇の実際を、特に医療化と犯罪化との関係の解明を軸にお話いただきます。同時期に翻訳された『刑事司法における薬物処遇の社会学』（2015:現代人文社）にも示されているように、刑務所処遇における認知行動療法の世界的展開と、その日本的対応の特異性というマクロな背景とともに、刑務所内部で実際になされたやり取りの詳細が明らかにされるものと思います。

（進藤理事、伊藤理事：研究活動担当）

## 7. 看護・ケア研究部会報告と案内

1) 第1回定例研究会（関東）/看護・ケア研究部会共催 公開企画 報告

日時：2016年11月23日（水・祝日）14:00～17:00

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 秋葉原ダイビル 12階 会議室A・B・C

講師：菅原和孝（京都大学名誉教授）

講演テーマ：「人類学の夢想とフィールドワークの経験」

要旨：身体及び会話の人類学者として著名な菅原和孝先生に、30年以上にわたるカラハリ狩猟採集民グイ(ブッシュマン)のフィールドワークをもとに、1. フィールドワークの経験と2. 人類学の夢想についてお話しいただいた。

フィールドワークの経験では、基本的な身構えとしての方法論的特徴を「生活世界の内部から人々のふるまいを理解する」現象学的態度として紹介され、この方法によって見出された、接触という経験や挨拶(出会いの相互行為儀礼と〈微視的なわばり〉)がどのように行われているのかを、日常会話の分析や生活史の語りの分析、身ぶりの分析などと共に示された。現地語の発音や録音された音声も流し、それに触れることによって、分析の実体験となった。人類学の夢想では、「環境と虚環境」に関する興味深い菅原モデルを展開された。菅原先生は、「世界-内-存在の様態を理解する手がかり」は「見る」ことよりも「歩く」ことにあり、「環境と虚環境」の境界を歩くことこそが私たちの根源的な生活様式であると説かれた。

質疑応答では、主に「虚環境」についての議論が行われ、「虚環境」が夢や白昼夢、時間を越えること、環境と虚環境の間がモザイク状になっていることなどが紹介され、実際にイメージをすることで理解を試みた。また、ゆっくり「歩く」ことは地平を限定し、それ故、見えないものに思いをはせる営みが生まれることなど、身体論の奥深さにも触れることもできた。「虚環境」をさらに突き詰め、新しい身体論としての菅原モデルの完成が期待された。参加者は60~65名であり、会場いっぱいとなった参加者が、「夢想」を堪能した。

2) 看護・ケア研究部会1月定例会 案内

日時：1月21日(土) 14:00~17:00

会場：首都大学東京荒川キャンパス 校舎棟 364 教室

発表者1：金子雅彦さん(防衛医科大学校)

発表テーマ1：「日本の医療提供システムの変遷と今後の展望」

発表者2：細野知子さん(首都大学東京)

発表テーマ2：「慢性の経過をたどる2型糖尿病患者の生活経験-現象学的記述の試み」

※開催場所の地図はリンク先をご覧ください。 <http://www.hs.tmu.ac.jp/access.html>

(西村理事：研究活動担当)

8. 編集委員会報告

1) 『保健医療社会学論集』27巻2号は、予定通り2017年1月に刊行の見込みです。

2) 『保健医療社会学論集』28巻1号は、特集および書評特集を掲載し、2017年7月に刊行の見込みです。

(樫田理事・石川理事：学会誌編集担当)

9. 国際交流委員会報告

世界社会学会が、2018年7月15日から21日まで、カナダのトロントで開催されます。大会の全体テーマは、Theme: Power, Violence and Justice: Reflections, Responses and Responsibilities です。RC15(Sociology of Health)のセッションに関する応募は2月2日から始まる予定です(詳細は後日改めて発表されます)。また、口頭発表の申し込み締め切りは2017年4月25日です。詳しいことは、下記のURLをご覧ください。

<http://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/toronto-2018/>

(トロント大会全体に関するサイト)

(細田理事：国際交流・渉外担当)

#### 10. 科研費の新たな審査区分表について

学会総会及び前回のニューズレターでも取り上げましたが、文部科学省において平成30年度からの科学研究費助成事業の新たな審査区分表が平成28年12月22日に公表されましたので、お知らせします。[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/1380667.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1380667.htm)

本件については、本学会としても蘭会長よりパブリックコメントを提出いたしました。社会学に関する表現の修正等にはコメントが一部反映されたものと思われませんが、改善されなかった部分については今後も注視して参りたいと思います。ご意見等がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

(清水理事：総務担当)

#### 11. 編集後記

- ・日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはpdfファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局(下記)まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(清水理事：総務担当)

発行：日本保健医療社会学会

編集：総務担当(清水準一)

学会事務局：

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

TEL：03(5389)0237